

# 知財戦略の社会実装

2020年4月16日

知財戦略を社会実装するためには、社会実装を担う人材に加え、実効性を担保するための仕組みが必要となる。一方で、環境が複雑さを増し、将来の予測が困難な状況において、柔軟性を備えた人材をどのように育成、獲得し、時機を逸しない制度整備をどのように実現すべきか

## これまで

### 制度整備

○立法プロセスの例



ハードロー中心の制度整備

### 社会実装を担う人材



知財中心の専門性

## 目指す社会像

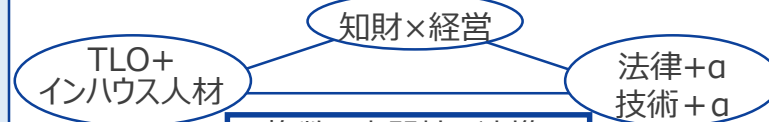
### 制度整備

ハードロー(立法)とソフトロー  
(ガイドライン、契約、運用他)の組合せ

立法と行政、司法と行政の役割分担

多様な手法で時期を逸しない制度整備

### 社会実装を担う人材



複数の専門性+連携  
+デマンドサイドの設計

## 目指す社会像に向けた論点(案)

- 知財戦略を実行するにあたり、どのような人材が必要となるか、そうした人材をどのように育成し活躍できる環境を構築すべきか
- 変化の激しい時代において、知財戦略の実効性を担保するため、時機を逸しない制度整備の仕組みのあり方
- その他イノベーション・エコシステムに資する知財戦略のあり方

## 人材確保・育成について

- 産業構造の変化の結果、世界的な「未来人材（技術、ソフトスキル）不足」が加速。
- 不足する「未来人材」を確保するための、世界の2つのトレンド
  - ① 柔軟な働き方（労働条件・働き方の多様性）
  - ② 社員スキル強化（リスキリング・アップスキリング）プログラムの提供
- リスキリング・アップスキリングモデルは、企業のみならず行政にとっても有益。  
諸外国では、官民による補助金や大学におけるデュアルトレーニングなどを実施。
- 欧米では、能力をアップデート（トランスフォーム）しつつ、様々な部署を経験し、仕事のキャリアを積み重ねる動きが、トレンドになりつつある。  
これは、（終身雇用型の）日本の特徴と重なり、日本の良さを生かした形で、デジタル変革に合わせて、人材戦略を変革していくのがポイント。
- スペシャリストをマネジメントする経営層における意識・能力が重要。
- 地域においては、経験が豊富で能力が高い人材の地域への橋渡しが重要。

## 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う社会変革の加速

- 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、テレワークや遠隔教育、遠隔診療などのICT等を利用したリモート化やデジタル化が加速
- テレワーク等、これまでとは異なる働き方がノーマルとなり、企業等には、柔軟な労働条件や働き方の多様性が求められている。
- 新型コロナウイルス感染症の急増の影響で、学校等におけるオンライン授業が一気に拡大。制度やルールの迅速な適応が求められている。
  - － 「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」（令和2年4月7日閣議決定）において、取り組む施策として、「オンラインでの学びに対する著作権要件の整理」があげられている。



知財戦略の社会実装を推進するため、上記視点を踏まえつつ、引き続き、リスキリング・アップスキリングの手法等を調査・把握し、人材育成・確保の方向性（社員スキル強化、労働の流動性向上、専門的な知識やスキルを持つ人材をマネジメントできる人材の確保、専門人材のマッチング等）や、具体的な手法の活用を促していく。